

登録コード:MH191200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目・必修
科目名	老年看護方法論【22M以降】 Gerontological Nursing Methodology		
担当教員	會田 信子 他 塚田 尚子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/2年 後期(前半) 木曜・2時限		
単位数、講義室	1単位	保健学科211講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	看護専門職者に必要な老年看護学のリスクアセスメントの視点を理解し、事例におけるリスクと対策を検討できる。
	≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	社会で派生する多様な健康問題に対して、看護専門職者に求められる認知症高齢者ケアと高齢者の晩年期ケアにおける倫理的・法的・社会的課題および支援のあり方を説明できる。
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本講では、高齢者医療・福祉施設で派生するケアトラブルの発生リスクに対する感受性を高めるために、ケアトラブル事例をもとにリスクマネジメントの基本知識と対応策を協同学習によって学びます。また、人生の完結という重要な発達課題に対峙する晩年期（end-of-life）や認知症高齢者に対するケア現場で派生する倫理的・法的・社会的課題について、看護職としての役割と専門職連携のあり方を考究することを目的として進めます。 本科目は、2年次前期で学んだ老年看護学系科目（老年看護学概論等）と基礎医学系科目（成人看護健康論Ⅰ等）の知識を前提とし、3年・後期の「老年看護学実習」における重要な基礎的知識となります。 ※本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。 ※本授業は、担当教員の医療機関や高齢者施設での看護師としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	★後期で学ぶ『臨床老年看護論／木3限』と『老年看護方法論／木2限』は、学習内容の順序性を考慮しながら融合的に展開します。開講日時に注意して下さい。 第1回（10月29日/木2限）高齢者ケアにおける倫理的課題対応と関連法規＜課題提出b1＞〔會田〕 第2回（11月19日/木2限）エンドオブライフケア＜課題提出b2＞〔塚田〕 第3回（11月19日/木3限）低栄養と褥瘡＜課題提出b3＞〔塚田〕 第4回（12月10日/木3限）リスクマネジメント①基礎知識：講義〔會田〕 第5回（12月17日/木3限）リスクマネジメント②事例検討：グループワークと共有〔會田〕 第6回（12月24日/木3限）リスクマネジメント③事例検討：グループワークと共有〔會田〕 第7回（01月07日/木3限）個別課題学習：リスクマネジメント④まとめ＜課題提出b4＞★1/21(木)23:59まで〔會田〕 第8回（01月21日/木3限）単元の総括 ※授業アンケート〔會田〕		
授業の進め方	授業は「講義」「協同学習」および「個別課題学習」で進めます。 1) 講義 ・指定テキストと資料、視聴覚教材を用いて進めます。 ・配付資料は事前にeALPSにアップするので、各自で印刷・ダウンロードして下さい。 ・授業中に【課題】を提示します。教員の指示に従って提出して下さい。 2) 協同学習 ・6～7名編成のグループで課題を行い、全体共有で理解を深めます。 3) 個別課題学習 ・協同学習での学びから、個別課題を通して振り返ってもらいます。課題は、授業中に示します。 ※テキスト3冊は4年次の臨地実習まで使います。テキストの内容は毎年更新されるので「最新版」を購入して下さい。毎回、その日に使うテキストをeALPSに提示するの持参して下さい。		
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 1) 會田信子他(編), 最新老年看護学(最新版), 日本看護協会出版会. 2) 堀内ふき他(編), ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践(最新版), メディカ出版. 3) 野尻晋一(著), リハビリテーションからみた介護技術(最新版), 中央法規. 【参考書】		

テキスト，教材，参考書	各講義の中で随時、提示します。
成績評価の方法	成績評価は、1)課題提出50%、2)グループワークと共有50%の配分比による合計点で実施します。 1) 課題提出（計4回） ・課題内容などは、授業中に説明します。 2) グループワークと共有 ・成績評価の基準に則して評価します（参加度を重視します）。
成績評価の基準	成績評価の方法の合計点にもとづき、判定基準は、90-100点(秀)、80-89点(優)、70-79点(良)、60-69点(可)、60点未満(不可)とします。 1) 課題提出の課題は、下記の4項目で評価します。 ①提出期限（50点）：指定期限までに、指定された方法で提出されている。 ②課題内容の適切性（20点）：課題に対して適切な内容が記載されている。 ③文章構成力・論理性（20点）：自身の主張に対する理由などが客観的・論理的に提示されている。 ④書式等（10点）：誤字脱字がなく、主述関係が明確で、指定フォームに準じて作成されている。 2) グループワークと共有は、下記の3項目で評価します。 ①グループワークの参加度（80点）：遅刻・早退なくグループワークに協力的・主体的に参加している。 ②発表態度（10点）：聞き取りやすく（声の大きさ、抑揚など）、理解しやすい話し方で伝えている。 ③課題内容の適切性（10点）：専門的視点から分析し、他グループからの質問を踏まえながら論理的に説明できている。
事前事後学習の内容	【事前学習】 予習してほしい内容は、各回の講義前にeALPS上でアナウンスします。 【事後学習】 授業資料と一緒に、別紙として新聞記事や学術論文等をeALPSに提示します。講義の復習とともに、社会情勢との関係や今後の課題などを検討して、より理解を深めていって下さい。幅広い学修のために関連図書を読むなど、主体的な学習を期待しています。 ※本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします：授業時間15時間（2時間×7.5回）＋自己学習時間30時間（4時間×7.5回）＝45時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	●オフィスアワー 随時とします。事前にメールでアポイントをとって下さい。 會田信子研究室（中校舎3F）aida@shinshu-u.ac.jp 塚田尚子研究室（中校舎3F）igarashi_naoko@shinshu-u.ac.jp ●出席確認 ・出席は「QRコード」と「手書き署名による出席」で確認します（欠席者の代筆等の不正行為はしないでください）。 ・事前に欠席することがわかっている場合は、メールにて、講義担当者に欠席理由を教えてください。事前に連絡できない場合は、後日でも結構です。 ●学習の補充 ・単発的な欠席の場合、いかなる欠席理由であっても、「学習の補充」は特別に課すことはしていません。欠席した時は、eALPSにアップされている配布資料とテキストで自己学習をしてください。 ・特に「グループワークと共有」は評価方法の特殊性から「学習の補充」が難しいため、原則として行いません。 ・出席を前提とした課題提出（b1～b4）については、期限内に提出すれば、評価基準に応じた評価をします。その都度、教員にご相談下さい。 ・欠席が長期間に及ぶ場合は、「学生便覧」の規程に準じた手続きをとって下さい（ただし、自己都合による欠席については学習の補充の対象となりません）